

久玉っ子の心通信

発行
久玉小学校
「熊本の心」啓発部

本年度、久玉小学校は熊本県教育委員会より「熊本の心」活用事業の委託を受け、研究を進めてきました。十月二十一日には、多くの方々の協力と応援をいただき公開授業を開催することができました。心から御礼申し上げます。



子どもの感想から
○毅は両親に心配をかけてはいけないと頑張っていました。すごいなと思います。また、足が不自由な母親のために山かごを買い景色を見せたところから、私も親孝行をしなくてははいけないと思いました。

六年生 「熱海の山かご」
この話は、熊本城下の出身で、明治時代に新しい国体をつくったことに貢献した井上毅のお話です。少年期、家が丈夫ではなかったが、家の手伝いをしながら勉強に励んだ彼は、明治時代になると東京に出て猛勉強し、政府の役人となりました。そんな彼は、熱海の温泉旅行で見た美しい景色を、病気のため足が不自由となった母にも見せたいと考え、山かごを手に入れようと思ひます。山かごを手に入れることは難しかったが、諦めずに手に入れた山かごに母を乗せ、熱海の景色しながら何度も庭の中を回ったのでした。

保護者の感想から
○主人公は、たずさわった人に感謝の心を持つことのできる人だと思ひます。その中でも、家族である母親を大切にしたいという思いと感謝の心が行動を生み出したのだと思ひます。勉強が好きで、一心に頑張り、偉業を成し遂げたというだけで、でもそれ以上に親孝行など、その心に感動です。

一年生 「わんぱくまじいん」
この話は江戸時代の儒学者である松崎慥堂（松次郎）のお話です。子どもの頃からわんぱくだった松次郎は、両親のすすめで寺子屋で学問を始めたが、わんぱくがなおらず、お寺で修行することになりました。その後、江戸でもっと勉強したいと考えた松次郎は、村の人に「お寺を建て直す」と嘘を言ってお金を集め、その金を持ち村を飛び出したが、江戸への道中、どろぼうに全とお金を盗られてしまふ。事情を知った浅草の寺和尚から、正しい行いについて教えられ、今までの自分の行いを反省し、学問の道に励んだというお話です。

子どもの感想から
○わんぱくなまじいろうがくしやになつてすごいなとおもいました。じぶんでばんきょうがしたいとおもつてえどにいったのもすごいです。



保護者の感想から
○目標や夢を持つことも大切だが、心が豊かでないといけないことなど考えさせられました。勉強も大切ですが、心も清くありたいです。

四年生 「白魚の来る川」
このお話は、天草の楠浦村（現在の天草市楠浦町）の庄屋である宗像堅固のお話です。当時、村にある川は大雨が降ると大洪水を起し、田畑に大きな被害をもたらしていました。堅固は、川の流れを変える大工事に取組む決意をしました。固い岩山を掘り抜く工事の困難さや財産をなげうって取り組むことに、村人や親類は反対するが、ついに堅固の固い決意は村人の心を動かし、大変な工事を完成させました。



子どもの感想から
○困っている村人をどうにかして救わなければならぬと思ひました。のべ四万二千人の人手と三百八十両の費用をかけて岩山を掘りぬくなんて、とても苦労したんだなと思ひました。

保護者の感想から
○周囲に反対されても一人の曲げずに工事を行ったことは「自分に自信を持つ」ことからは始まると思ひました。

保護者の感想から
○些細なことでもほめて育てることで、子どもは自信をつけ目標に向かうのではないのでしょうか。また、観察力や一日の過ごし方も変わってくると思ひます。何事も成し遂げる強い精神力を育てることが大切だと思ひました。



子どもの感想から
○人に笑顔になつてほしいから頑張るといふ気持ちがすばらしいと思ひました。

二年生 「『めごいにゃあどん』ときつね」
子どもの感想から
○人を助けることはとてもいいことだと思ひました。私も人を助けながら大きくなりたいです。



保護者の感想から
○まず、天草のお話であるということにびっくりしました。「めごいにゃあどん」とは何のことかなと思ひましたが、子どもが読んでいるのを聞いて、私が小さい頃、漁師さん夫妻が「かごに魚を入れて「魚はいらんですか。」と売りにきていらつしやつたのを思い出しました。何かいいことをすると気持ちが晴れて、すぐく得した感じがします。

三年生 「ぼくの町のたいこおどり」
子どもの感想から
○久玉にも祭りがあります。昔は青年団の人たちが中心になつて太鼓や行列をやつていましたが、今では小・中学生が加わつてやっています。伝統や文化を残し、伝えていくことは難しいことだと思ひます。しかし、無くなつてしまふのは寂しいことです。子どもたちが町の文化に触れ、関われることは大人になつてからの宝物になると思ひました。

